

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくります。

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 ☎ 36-0231

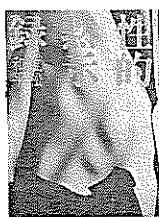
としかた

郷土の作家が活躍しています
みんなて応援しよう

◇立松和平著『性的黙示録』が、今静かなブームを起しています。『遠雷』『春雷』と合わせて、3部作になっています。ぜひ読んでおきたい本です。

ほかに『今も時だ』『光句い満ちてよ』『火遊び』『蜜月』『天狗がやってくる』

『歓喜の市』などがあります。



◇柳田邦夫氏は、『ガン回廊の朝』『死角巨大事故の現場』『マツハの恐怖』『墜落』（上・下）『恐怖の2時間18分』など、医療、航空に関するノンフィクションを次から次へと出しています。氏は、大きな事故の現場で精力的に、緻密な調査をもとにして書く日本を代表するノンフィクション作家です。



◇『レモンちゃん』の愛称で、深夜放送のディスク・ジョッキーの人気を独占した落合恵子さんは、

読書活動推進講座



『冒険小説の時代』をテーマに講演する森詠氏
(11月24日開催「読書活動推進講座」)

『氷の女』『スプーン一杯の幸せ』『ザ・レイプ』など多くの小説、エッセイを発表、女性の目をいかにして活躍しています。



◇宇都宮在住の志賀かう子さんは、『祖母わたしの明治』で日本エッセイストクラブ賞を受賞し、すばらしいエッセイを新聞紙上等に書いています。



◇那須の診療所医師見川鯛山氏は、『医師ともあろうものが』『本日もし休診』『山医者のおちよと一服』『山医者の茶飲み話』など、おもしろく、痛快なエッセイをプレゼントしてくれています。

◇『プラハからの道化たち』で江戸川乱歩賞に輝いた高柳芳夫氏は、外交官出身らしく、世界を舞台にした推理小説を読ませてくれます。



◇『影を裁く日』『モスクワからきたスパイ』『ベルリンの柩』などがあります。

◇冒険小説という新しいジャンル

◇最近日本絵本賞に引き続き小学館絵本賞を受賞した絵本作家岩村和朗氏は、『タンタン』シリーズ、『14ひき』シリーズのほか、たくさんさんのすぐれた絵本を出しています。あなたのひとときを絵本の中に沈めてみてはいかがですか。

◇佐江衆一さんも本県にゆかりの人です。

◇『ふらり』（童話）『あけぼの』（ずいひつ）を市民のみなが書いております。

◇創作活動を第一線で行っている人たちにより一層頑張っている人たちがいます。図書館と一緒に、どうぞ応援してください。

読書案内① (一般向け)

話題作を
図書館で

この1年間に出版された本の中から、話題作の1部をご紹介します。

読みものでは、平岩弓枝の『青の回帰』渡辺淳一の『長く暑い夏の日』瀬戸内晴美の『私小説』などに人気が集まりました。それに宮本輝の『ドナウの旅人』母と娘とそれぞれの恋人という4人連れの旅に、殺し屋風の中年男が出没し、7か月の旅の果てに黒海のほとりのスリナで何が起きるか。新聞連載1年7か月にわたった大作をじっくり読んでみてはいかがですか。

作者自身の満州からの引き揚げ体験をもとに書かれた、宮尾登美子の『朱夏』では、混乱の中での開拓団の生活が女性らしい具体的な描写でとらえられています。こ

のほか、堺屋太一の『皇臣秀長』など歴史ものもよく読まれました。

外国小説では、『モモ』のミヒャエル・エンデが大人のために書いた『鏡の中の鏡』奇想天外な長短30の物語は、作者の父エトガル・エンデの挿絵とあいまって読む人を鏡の中の迷宮に引き込みます。

人間存在の神秘をふと考えさせる1冊『恋をするエイラ』は、ジョン・アウル『大地の子エイラ』の第2部。ネアンデルタールの部族を追われた一人旅立ったエイラに、宿命ともいうべき愛の出会いがおとずれます。

アーサー・ヘイリーの5年ぶりの作品『ストロング・メディスン』は、主人公の女性が、名もない販売員から男性優位の保守的な製薬

会社のトップにのぼりつめるまでを描いたもの。植物人間・薬物中毒などよそ事ではない深刻な問題を提起しながらも、読んだ後に残るさわやかな印象は作者の力量とあってよいでしょう。

アメリカ産業界の迫力をさらに感じたい方には、リー・アイアコッカの自伝『アイアコッカ』をおすすめします。自動車業界の激しい競争を生き抜いた半生が大胆かつ卒直に語られ、読者を一気に引きずり込む力のある本です。

子供たちの声を集めた、一風変わった構成の本も出版されました。スタジオ・アヌー編の『子供!』850頁もの厚いこの本に登場するのは、北海道から沖縄までの小学生174人。それぞれの自己

主張と社会批判はどれもみな鋭く個性的です。広く深い子供の世界を浮き彫りにした異色のインタビュ―集、子供と接する人たちにぜひ読んでほしい1冊。

スタッズ・ターケルの『よい戦争』も、テーブルコーダーを持って全米を回り、さまざまな人々の聞き書きによって構成されています。戦後40年たったからこそ語れるような証言の数々から、戦争のむなしさを伝える本音をえぐり出している点が印象的でした。

妹尾河童の『河童が覗いたインド』は、手描きの文章と細密イラストがいつぱいの本。好奇心旺盛な作者がインドを独自の視点からとらえ、それを克明にイラストに描いています。写真や活字とはまた違った雰囲気をもつ本です。一方『ウェネツィアの夜』は奈良原一高の写真集。この写真家の目は観光客でにぎわう昼ではなく、水の都ベニス夜の静けさに注がれています。迷路・橋・運河など1枚のモノクロームが伝える歴史の重さを味わってみてください。

今年は何冊、読んでよかったですか。

このほかにもよい本、おもしろい本がたくさんあります。冬の1日、図書館で探してみてください。

駐車はきちんと!

図書館北側砂利敷駐車場につきましては、ご迷惑をかけておりましたが、このたび、トラロープを張りました。

利用者の方も、枠内にきちんと駐車し、通路には駐車しないようご協力をお願いいたします。

なお、駐車台数に制限がありますので、相乗り等でご来館くださるようお願いいたします。

3階調査相談室

夜し?にある辞書、参考

?資料、郷土資料等

?一貸?は、ほとんどが貸

?出禁止ですが、ど

うしても必要な方のために、休館

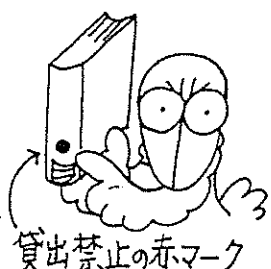
日や夜6時から翌朝10時までに限

って貸出する制度が「一夜貸し」

です。借りる時は期限を守り、本

を大切に扱ってください。

詳しくは3階カウンターへおた



貸出禁止の赤マーク

読書案内②

(児童向け)

冬休みに
読もう

絵 本

まず絵本から紹介します。

◆『ペロペロ』(しまのちづこ・偕成社) 学校から帰るといつも行く駄菓子屋。くじで4等しかあたらない女の子が主人公。伝統工芸の香りのする、染色による絵が、子どもの気持ちを巧みに表現しています。

◆『やまのえき』(野村たかあき・講談社) 1日に数本の列車しか通らない、山あいの小さな駅の物語。村の人の暮らしのようすが、力のかもった版画で語られています。足尾線がモデルとなりました。

◆『雑草のくらし』(かいのぶえ・福音館書店) 春夏秋冬、ただ草ぼうぼうに見えるあき地も、地面に

ぐつと近づいて観察すると、いろいろなのがみえてきます。著者自身の詳しい観察をもとに、正確に書かれた科学絵本です。

◆『14ひきのさむいふゆ』(岩村和朗・童心社) おなじみの14ひきのシリーズ。4冊めは、風が鳴り、雪が舞う冬のおはなしです。14ひきは暖かい部屋で、ソリをついたり、とんがりぼうしゲームを楽しんだりしています。そして、雪の晴れ間は、みんなそろってソリアそびです。とんがりぼうしゲームの作り方もついています。

読 み 物

次に、グレード別に読み物を紹介します。

●小学校低学年向

◆『なんでもくれるヒネ・クレル』(寺村輝夫・国土社) なんでもくれる、どんなことでもわかる。それがヒネ・クレルです。そんな人いるわけないと思っても、ついついおもしろさに引き込まれます。

◆『のら犬ノラさん』(竹崎有斐・あかね書房) のら犬にだって犬のくらし方がある。家の中で犬事に飼われている犬とはちがう、のら犬のたくましさ伝わってきます。まるで自分がのら犬になったようにも感じられるでしょう。

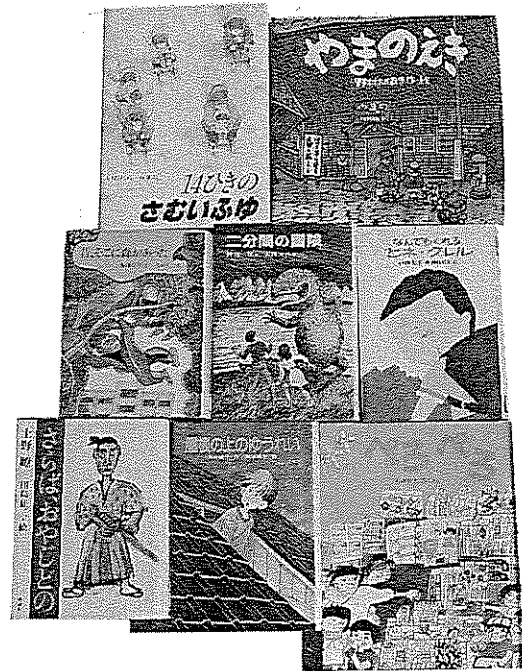
●小学校中学年向

◆『女たんけん隊 ニュース』(谷真介・ポプラ社) かおりは、3年2組学級新聞の記者です。そのかおりとともに、特ダネをさがしに洞窟の奥にもぐって行くと……。どきどきしながら、一緒に探険の気分が味わえます。

◆『ねこにかかったでんわ』(星谷仁・岩崎書店) 普段なにげなく使っている電話が、思いもしない所にかかってしまった。電話をかけたおばあちゃんと、電話をうけたねこは、どんなことを話したでしょうか。

●小学校高学年向

◆『二分間の冒険』(岡田淳・偕成社)



●中学生以上向

◆『さらば、おやじどの』(上野瞭・理論社) 江戸の時代に、ひとりの

少年が成長するすがたを描いた長編です。一見時代小説のようですが、内容は現代的で、権力者はずれ人間、暴走族のような少年たちなど、いろいろな人たちが主人公の少年をとりまいています。

◆『昔、そこに森があった』(飯田栄彦・理論社) 校門から玄関まで木でおおわれた学校。そこをくぐった者は、みんな動物に変身してしまします。あるいなか町の夜明農業高校を舞台に、象徴的に描かれた青春物語です。

◎児童図書室では、この他にも、月の本、ぴっぴかのかの本、子ども賞推せん図書等の読書案内をしています。どうぞご利用ください。

目 録

問 食堂や軽食ができるような売店を作ってほしい。

答 食堂の設置については、開館時の検討課題の一つでしたが、図書の開架面積をできるだけ増やす、文化会館内に食堂があるなどの理由から設置しておりません。

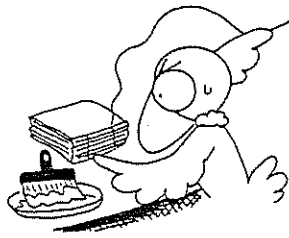
館内でも、正午から1時までに限り昼食がとれますので、ご了承ください。

手づくり本講座

日時 12月14日(土)午後2時～4時
12月15日(日)
午後1時30分～4時30分

場所 市立図書館3階集会室

内容 「表紙作りを楽しむ」
初日 表紙づくり
2日目 綴じ方・完成まで
原稿用紙と指定紙コース
講師 市立図書館職員
受付 12月6日(金)午前9時から
定員 40名



ニュース
コーナー



映画会

題名 「メトロポリス」(白黒58分、サイレント、1929年制作)

日時 61年1月12日(日)

第1回 午前10時30分

第2回 午後1時30分

場所 市立図書館3階集会室

定員 各回とも150名、入場は無料

ですが、整理券が必要です。くわしくは、視聴覚ライブラリーにおたずねください。

ロビー展示

図書館2階、児童室前のロビーでは、「読書関係団体紹介」をテーマに展示を行っています。読書関係の仲間がほしい、なにか一緒に勉強したい、子どものために悩んでいる方、実は、あなたの近くに仲間がおります。図書館では、それぞれの仲間の特徴を紹介し、機関誌などの発行物を展示しました。ぜひご覧ください。
期間 1月22日まで

落語会

第19回落語会を開催します。

この落語会では、「聞く読書」として「声の図書」を作成し、目の不自由な方々に鑑賞していただきます。寄席の臨場感をだすため、ぜひご来場し、いっしょにお楽しみください。

日時 61年1月18日(土)

午後3～5時

場所 市立図書館3階集会室

貸出状況

区分	60年10月	60年度累計 60/4～10/31
登録者数	943人	6,851人
貸出人数	館内	20,800人
	視聴覚	1,824
	館外	3,991
計	26,615	181,192
貸出冊数	館内	62,443冊
	視聴覚	4,127
	館外	16,674
計	83,234	550,502

(注) 登録者累計数は、開館からの累計数

10月の	館内	1日あたり	館外	1ステーションあたり
貸出人数	832人		160人	
貸出冊数	2,497冊		667冊	

利用案内

●開館時間

午前9時30分～午後7時

ただし、児童図書室は

午前9時30分～午後5時

●休館日

毎週月曜日

国民の祝日

図書整理日(毎月初日または翌日)

●貸出は

一人5冊。2週間以内

●年末年始休館

60年12月28日

61年1月4日

●移動図書館車の運休

60年12月17日

61年1月5日

61/1月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			①	②	③	④
5	⑥	7	8	9	10	11
12	⑬	14	⑮	16	17	18
19	⑳	21	22	23	24	25
26	㉑	28	29	30	31	

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
①	②	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	⑮	17	18	19	20	21
22	㉑	24	25	26	27	㉘
㉙	㉚	㉛				

ボランティア製作

あたらしい本

点訳図書
▽C・I・A(増淵清美)▽大山のお代のおもしろ酒肴(関光子)▽大山のお代のなんと二分間クッキング(原田邦子)▽なぞの美少女(岩下節子)
声の図書
▽いっしょにお茶を(間・高原・小森)▽雪国の春・ここからだストレス健康法・晴れときどき殺人(木村あい)▽いのちと性を学びあう(青木桂子)▽アトランティス大陸・魂へのデッドヒート(藤田東子)▽碧い鯨(横山嘉子)▽ベニスに死す(佐藤孝子)▽毎日の言葉(高原都)▽ねずみ色の童話集(館野ひろ子)▽冠婚葬祭殺人事件(黒川敏子)▽小さき者の声(高橋広子)▽夢喰う虫(渡辺美晴)

奇贈

小森明「惜春賦」・志賀さんを囲む会「微笑みへのことば」・足利銀行「足利銀行史」・ふろんでいあ「野州路追憶」・寺内伸江「歴史と共に」・鈴木和雄「風鐸」・鈴木直子「花をあつめて」・関道徳「灰色の屍」・斎藤和子「祈りのみち」ほか多数